

# 旧清水中河内小学校活用事業 事業計画概要書

## 学校法人つくば開成学園

令和7年11月



# あおい開惺高等学校の旧清水中河内小学校の継承について

## わたしたちのめざすところ

私たちの祖先は、暮らしの中で学びを深めてきました。

農業や狩猟、野草を探るといった日々の営みの中で、人々は助け合いながら、実際の体験を通して知恵や技を身につけてきました。

また、神社などのお祭りや習俗、言い伝えなど通じて、地域の歴史や風習、人としての在り方を学び、寺子屋では大人も子どもも自然に「教える人」「学ぶ人」となって、お互いに知恵を伝え合っていました。

わたしたちは、このような「人と人とのつながり」や「暮らしの中の学び」こそが、子どもたちの学びにとって、本当に大切なものだと考えています。かつて寺子屋があった清水中河内小学校には、長い年月をかけて育まれてきた地域の歴史と学びの文化があります。これは、今を生きる子どもたちにとって大切な教育の宝物です。

今の子どもたちに必要な学びは、すでにこの両河内の地域の中にたくさんありました。だからこそ、わたしたちは清水中河内小学校の思いと歴史を引き継ぎ、未来へつなげていきたいと願っています。

## 法人概要

高校名：あおい開惺高等学校（設置計画中）

設置法人：学校法人つくば開成学園

法人設立：2003年5月（静岡校設置は2004年10月）

開校予定：2026年4月

定員：640名

理事長：糸賀 修

校長：鮫島 功（予定）



旧清水中河内小学校を継承した

# 「地域社会と創る地域資源を生かした実践的な学びの場」の実現

## 提案事業の背景

当法人は、学校法人として「生徒一人ひとりを大切にすること」「徳に基づき、自律的に行動すること」「地域に必要とされる高校を、その地域で新たに創造すること」を信条とし、京都府、福岡県、長野県、大阪府と、各地の拠点から、狭域制通信制高校を設置し、各地域で独自の教育を展開しています。

静岡県内の拠点では、これまで、個の状況に応じた教育を行い、多様な生徒を受け入れてきました。本校は、生徒が高校を卒業後、生徒個々の持ち味がそれぞれに社会とふさわしくつながっていくことを目指しています。生徒には、「心のびやかに続けられること・我慢できること・楽しんでできること」をばんやりでも実感する体験を重ねてほしいと考えています。そこで、わたしたちは、中山間地区の教育資源を活かした体験活動も、充実させたいと考えました。

旧清水中河内小学校の位置する両河内地区は、中山間地ならではの自然資源や農林産物が豊富に存在します。両河内茶をはじめとした特産品や清流や湧き水など活かした農業など、住民主体の持続的な地域づくりに取り組んできました。旧清水中河内小学校は、明治28年の設立以来127年間にわたり地域の教育拠点として機能し、世代を超えた記憶と感情をつなぐ「地域の文化資源」もあります。その存在は地域アイデンティティの核であり、教育と地域再生を結びつける貴重な資産といえます。

本校は現在、都市部に学びの場を設置していますが、旧清水中河内小学校を活用し、両河内の自然・人材・文化資源を取り入れることで、実践的かつ探究的な学びを展開します。これにより「都市と地方をつなぐハイブリッドな教育モデル」を創出し、教育の質向上と持続可能な地域活性の両立を目指します。

また、隣接する宝樹寺は、両河内地区における寺子屋の発祥の地であり、本事業は教育の原点を見直す機会ともなります。今後、地域住民との対話を重ね、共に教育の内容を深めていき、地域と協働のもとで新たな学びの拠点を築いていきたいと考えています。



## 地域社会と創る地域資源を生かした実践的な学びの場

本事業は、旧清水中河内小学校を活用し、**都市部と中山間地を拠点とするハイブリッドな学びの場を提供する、新しい形態の高等学校の設置・運営を目指します。**

地域社会に根ざした教育を通じて、地域の活性化と持続可能な社会を支える人材の育成を図ります。学問的な知識の習得にとどまらず、地域社会との連携を深めることで、生徒が社会で生きていくために必要なスキルや人間力を養成します。両河内地区には長年培われてきた自然・人・文化といった地域資源が残されており、これらを活かした教育活動は「見る」「触れる」「感じる」を通して、教科書だけでは得られない実感的な学びを生徒一人ひとりに提供します。

### 事業方針

#### 地域社会との協力と共創

##### ◎ 地域との連携

地域の住民とともに学校設置準備委員会を立ち上げます。委員会で意見を交わし、地域の教育資源を熟知している人々の話に耳を傾け、具体的な講座や行事などの構想に着手します。

##### ◎ 地域住民との共同活動

地域住民の意見を伺いながら、校舎や体育館の活用方法についても検討します。地域住民が積極的に関与することで、学校と地域が共に発展する「共創」の仕組みを作り上げます。また、校舎の改修にあたっては、地域住民の意見も反映させます。地域住民と生徒、教員が意見を出し合い、地域の方々も愛着を持つような学校にしたいと考えています。

#### 実践的な学びの提供



##### ◎ 自然・文化体験講座

地域住民を講師に招き、生徒は地域に残る文化や自然を体験する講座などの活動に取り組みます。

##### ◎ 科目の実習

校舎の特別教室を利用して、理科の実験や家庭科の調理実習を行います。また、体育館や運動場を使い体育などの実習も行う予定です。

##### ◎ プロジェクト型学習

地域の農産物の生産性向上や観光資源の開発、地域ブランドの構築などをテーマに、生徒は調査・分析・提案を行います。実際に地域住民や企業と協力して実施することを計画しています。

## 事業内容

本事業は、旧清水中河内小学校を本校として活用し、**学校教育法第1条に定められた高等学校として、静岡県知事認可の通信制課程の高等学校を設置運営するものです。**

静岡県内には、既に6拠点（静岡市2箇所、富士市2箇所、富士宮市1箇所、沼津市1箇所）を設置しており、**現在550人程度の生徒が在学**しています。すべての生徒がそれぞれの学習に合わせて、旧清水中河内小学校での学校活動に参加する計画となっています。

各拠点から旧中河内小学校までの通学には、**スクールバスを運行する予定です。**

なお、両河内地区での活動にあたっては、地域住民の方々を地域の伝統文化や体験等の講師として招き、多様多彩な講座を開催していきます。

### 現状

認可	茨城県知事認可の広域通信制高校。本校（茨城県）の分校。
定員	3600名
教員数	122名



### 本事業の実施後

認可	静岡県知事認可の狭域通信制高校（予定）
定員	640名
教員数	29名

### 1日のスケジュール（例）

#### 時間 活動内容

9時30分 生徒は各拠点に登校し、スクールバスで旧清水中河内小学校へ

10時30分 農業体験等⇒校舎でワークシートの記入等

12時00分 校舎で昼食・昼休み

13時00分 史跡巡り

15時00分 スクールバスで各拠点に戻り、各自下校



## 事業スケジュール

	令和7年度					令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度～令和27年度
	11	12	1	2	3	4月～令和9年3月	4月～令和10年3月	4月～令和10年3月	4月～令和10年3月	
施設運営	●				●	●				
	11月	設置認可申請		3月	認可	4月	開校			
	●		→							
施設改修		●	→		●	→	→	→	→	
		電気・水道・防犯設備の検討・整備				設備・内装工事等				
			備品の搬入							老朽化に伴う設備・内装工事 外装や窓など建物の部分改修